

土・ひと・暮らしをつなぐ、香川の交流誌

さ ら り

9

2022 SEPTEMBER

緑のチカラで
しゃっきり元気！

【あぐりSPECIAL】
もともと、生産者に寄り添うJAに。
「担い手サポート」拡充宣言！

【らいふSPECIAL】

新リーダーに聞く

JA香川県

女性部と青壮年部

JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます！



農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

もっと、生産者に寄り添うJAに。 「担い手サポート」 拡充宣言!

JA香川県の重要な使命の一つは「農業振興」、すなわち生産者の経営安定化と所得増大、そして何世代も大切に受け継がれてきた香川県の農業を将来にわたって継続・発展させていくことです。そのための方策の一つとして当JAでは、地域農業の“担い手”となる生産者への総合的な支援「担い手サポート」を展開しています。そして今年度、この事業をさらに一歩進めて、より一人一人に寄り添った「農業経営コンサルティング」へと進化させていきます。今月は、この事業の概要と、実際の事例をご紹介します。





JA香川県
担い手サポートセンター
宮地 賢一センター長
に聞きました。

「JA香川県「担い手サポートセンター」は平成28年4月に設置され、同時に、各地域の営農指導員や融資担当者などが「担い手サポーター」として担い手サポート活動を開始しました。

それ以前にも当JAとして生産者をさまざまな形でサポートしてきましたが、この担い手サポートセンター事業は担い手サポーターがチームを組み、営農・経済・信用・共済などの相談窓口を一本化。各部門や外部機関とも連携し、地域の担い手生産者のさまざまな悩みや課題の解決、経営の健全化や規模拡大、所得増大などを実現していくという取り組みです。

主な訪問先は、新規就農者や規模拡大・法人化を進める担い手生産者などです。こうした方々を地域の担い手サポーターが直接訪問し、現状抱えている課題や、JAに対するご意見、ご要望を伺い、対話から得られたニーズの実現に向けた情報提供を行っています。

先進技術で農業経営を“見える化” 最適な今と未来を一緒に考えます。



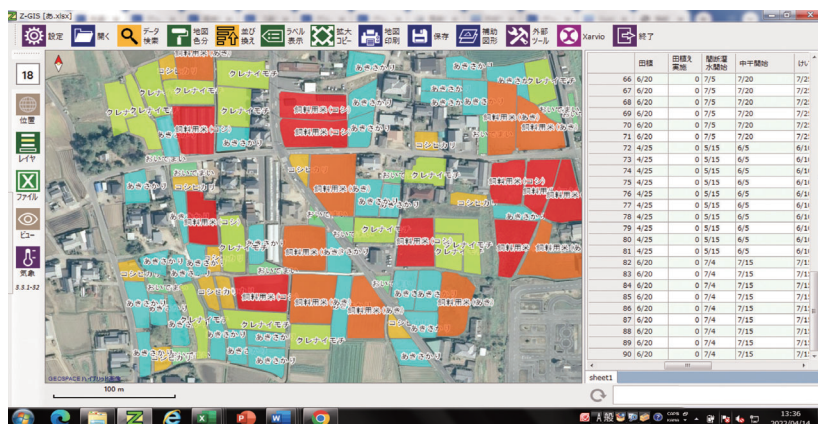
担い手サポーターは訪問の際にタブレットを持参し、「農業経営支援システム」のシミュレーションに基づいた的確な分析や提案をすることができます。新規就農者の経営安定化へのアクションプランをアドバイスするのにも役立っています

また、担い手生産者にとって農作業や管理の効率化に強力な武器となる「スマート農業」導入の一つとして、労働管理が大幅に省力化できるZ-GIS（全農営農管理システム）を提案しています。

さらに、外部のさまざまな関係機関との橋渡し役も務めます。栽培技術に関することは先進的な情報を持つ県農業改良普及センターに、農地の取得や受託については農地機構や農業会議につながります。また、税金や相続などについては税理士から専門的なアドバイスを受けています。

担い手サポートの特徴は、先進的な技術を積極的に活用していること。「農業経営支援システム」を用いて経営状況などをデータで分析し、現状から規模拡大までの実現性を、労働・収支の両面からシミュレーションすることで、適切な事業提案や経営面での改善策を提案しています。

その中で事業運営の改善点や経営面での改善すべき課題があれば、当JAの総合事業力を活かして各部署と連携し、担い手生産者の皆さまと改善点や課題を共有し、ともに伴走支援を行います。たとえば、労働力が必要な場合は、当JAが運営する無料職業紹介所「アグリワーク」や連携するほかの技能実習生の管轄機関につながります。



Z-GIS「全農営農管理システム」

GIS技術とは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。

そして、各サポーターチームがいただいた貴重なご意見、ご要望などは担い手サポーター全員で共有し、JA事業に反映させるように努めています。



7月26日、仲多度地区営農センターで行われた「仲多度地区担い手サポーターチームミーティング」の様子。各サポーターが取り組んでいる事例を情報交換し、それぞれの分野から意見交換を行います。

「農業経営コンサルティング」を拡充し より一人一人に寄り添ったサポートを提供。

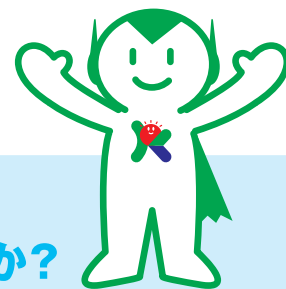
さ

らに当センターでは、令和4年度から新たな重点施策として「農業経営コンサルティング」の機能強化に取り組んでいます。これまでの担い手サポーターの訪問活動よりも、さらに細かい農業経営診断などを実施し、経営戦略や営農計画の策定・実践の支援にチームとして

取り組んでいくものです。さらに詳しく経営の実情を拝見させていただくことで、これまでの事業提案活動からもう一歩踏み込んだ農業経営管理の支援ができるようになります。そして事業提案を実施する時は、そのフォローアップと伴走支援の実践も行っていく予定です。

この取り組みは現在専門的な研修を受けた担い手サポーターセンターのサポーターが担当していますが、来年度からは各地区営農センターに配置し、より機動的な動きができる体制を整えていきます。

JA香川県は、今年度からの第7次中期経営計画に基づいた「農業振興アクションプログラム」で「担い手サポーターによる農業所得増大に繋がる総合事業提案」を重点目標と定めて取り組んでいきます。それにより、地域の担い手農業者や農業法人、新規就農者などに安心して夢のある農業に挑戦していただきたいと思います。



生産者の皆さまへ

**農業経営のお悩みや
検討していることはありませんか？**

品目拡大

品目選定

施設化

省力栽培

低コスト化

秀品率向上

安定多収

土づくり

経営分析

人材雇用

後継者作り

法人化

集落営農

農地貸借

機械導入

補助・資金

融資

スマート農業

GAP

農業リスク

担い手サポーターがJAの総合事業提案力でお応えします！

お問い合わせ先：各地区担い手サポーター

担い手農業者訪問

担い手サポートセンター
稲垣達也サポーター担い手サポートセンター
細谷昌平サポーター

株式会社播本農園

播本 收平さん(31歳)

【琴平町】

この日は、次のステップである農業経営コンサルティングについて提案するため、担い手サポーターが播本さんを訪問しました

「いんぴらさん」のある象頭山の麓で大規模農業に挑戦する若き経営者、播本收平さん。25歳でそれまでの勤めを辞めて農業の道に飛び込んだそうです。以来、順調に規模を拡大し法人化を果たして4年目という、地元期待の担い手生産者です。現在の規模は10畧で、キャベツを中心に、夏場はスイートコーンも栽培しています。

「家は非農家で、農業の経験は0からのスタート。正直、JAがどんな組織かも知りませんでした。最初の年に独学でナスを植えてそれなりに成功。そこで次の年には農地を借りて増やし、キャベツを植えたらほとんど収穫できない結果に。その後、JAの生産部会に入っ

て教えてもらったりと、自分なりに試行錯誤してやってきました」という播本さん。仲多度地区の鈴木サポーターの訪問を受け、いろいろ相談するようになったのは3年ほど前からとのこと。その後、担い手サポートセンターの細谷サポーター、稲垣サポーターなどがチームを組んで、播本さんを全力でサポートする体制ができました。

「最初に相談したのは、確定申告についてだったかな。それと、経営状態を分析してデータで見せてくれたのがすごく助かりました。ほかにも雇用の相談や、地域の特産であるニンニクを栽培したら経営はこうなるとか、自営業者である農家にとって、自分以外の意見を第三者から聞けるのはすごく貴重だと思っています」。

10月からは、Z・G・I・Sの導入も決めました。100か所ほどにも分かれているほ場の管理がスムーズになるうにJAとも親子機能で常時接続し、より細やかな営農指導を受けることも可能になります。

「今、相談しているのは倉庫兼作業場を建てたいということ。それに、今はコロナ禍で少なくなってしまう人手もまた増やしたい、GAPの取得にも興味があります」と、経営者としてさまざまな思いを巡らせている播本さんです。

「今後の目標は、人手を10人くらいまで増やして作付面積25畧くらいまで拡大すること。主力のキャベツを加工販売まで一貫してできる会社を地元で作ってみたいですよ」と、夢は広がります。その夢の実現のために頼れる存在でありたいと、これからも担い手サポートチームは奮闘を続けます。



仲多度地区営農センターの担い手サポーターを混じえて、膝をつき合わせてのコンサルティング。写真左から鈴木サポーター、播本さん、稲垣サポーター

女性部と新リーダーに聞く



JA香川県女性部
部長 大平 聖子さん

観音寺市大野原町在住。今年4月に豊南地域からは初となる県域女性部長に就任。現在は夫と長女家族での三世代生活。大野原支店に隣接する大野原八幡神社の「雅楽部」にも所属し、筆簞や琴などの和楽器を神事や伝統行事などで演奏している。

女性部の主な活動は？

地域女性部ごとに多彩な活動が繰り広げられています。多くの地域で行われているのが、地元の食材を使った加工品作りや料理教室、手芸やフラワーアレンジメントなど多彩な趣味の教室、JAまつりへの参加（バザーや作品の展示など）、そして食農活動や地域貢献活動などでJAの支店協同活動と連携する機会も増えています。40歳代以下の方が集まるフレッシュミズ部会がある地域もあり、子どもと一緒に参加できる活動も行っています。

県全体で長年続けているのは「^{ゼロ}ゴミ0 ^{ゼロ}530」清掃活動として行う地域の清掃活動ですね。新型コロナウイルス感染症対策もあり、現在は「5月30日に全県一斉実施」にこだわらず、各地域で日程を決めて実施しています。

「女性部に入ってよかった！」

女性部では支部女性部や生活教室、ボランティアなどに分かれてさまざまな活動を企画しています。興味のある活動に参加して、気楽におしゃべりができる友人ができました。他県への視察旅行も印象に残っています。

女性部ってどういうところ？

一言で言うと、楽しいですよ！ 出会いがあり、年代や職業などを超えた友人ができ、いろんな経験ができる場所です。若い方も、農家でない方も入っていただければ学べることが多いと思います。

新女性部長としての意気込みを！

人前で話すことは苦手ですが、ほかの役員の皆さんたちも協力してくれ、一人じゃないことが心強いです。みんなで考えながら進んでいこう！と思います。

JA香川県に望むことは？

今年、同JAのウェブサイト内に念願の女性部コーナーが新設されました。活動報告などを掲載して、もっと多くの方に女性部活動を知っていただき、仲間を増やしたいと考えています。



豊南地域女性部の活動の一つ「大正琴教室」



青壮年部

青壮年部の主な活動は？

県内13支部が自主的に企画・実行しています。

青壮年部の大きな役割は、各支部の農業者の意見を集めて、JAや香川県など行政との意見交換を行ったり要望を出したりすることです。農業者一人一人ではできないことも、集まれば現状を変えていく力になります。JAまつりなどJAのイベントへの参加や、スポーツ交流大会などのレクリエーション、地域の農家の防除や草刈り作業の受託などさまざまです。食農活動も多く行っており、各支部が地元の小学校での農業体験を続けています。この2年間はコロナ禍のため多くの活動ができなくなりましたが、また再開していきたいです。



JA香川県青壮年部

委員長 藤澤 明さん

さぬき市長尾在住。平成21年から㈱さぬきベジファーム代表取締役。栽培品目は青ネギ、ブロッコリー、キャベツ、ナバナなど。今年4月に、同地域でJA香川県青壮年部四国大川支部と大川北部支部を統合して発足したさぬき支部の初代部長に就任。同時に、県域の代表である委員長に就任。

「青壮年部に入ってよかった！」

地元のJAまつりへの参加ですね。会場の草刈りや屋台の運営などを行ってきました。大変ですが、仲間と同じ目的に向かって汗を流す爽快感はやみつきになります。



ほ場で苗の様子を確認する委員長

新青壮年部長としての
意気込みを！

重責を感じています。就農時の農業の恩師の「頼まれたことは全部やりなさい！」という教えを守ってやってきたので責任感をもってやり遂げたいです。

今、農業に光が当たっていると感じています。新規就農者も増えています。もっともっと魅力を感じてもらえる農業、組織にするために、まずは新しいことを一つでも始めたい。それを見てみんなが“自分も何かしよう！”という気になってくれるとうれしいです。

「青壮年部はどういうところ？」

農業者はそれぞれが個人事業者。誰かと話したい！と思うときもあります。多くの農業者と交流することで違う発想を得たり、ステップアップするためのきっかけになる場所でもあります。

JA香川県に望むことは？

農業者は自分の農業をよくすることを考えるのが第一ですが、そのよりどころとなるのはやはりJAです。そのためにもっと情報や意見の交換を活発にして、ともに農業を盛り上げていきましょう。

仲間づくりがしたい！

地域や農業のために何かしたい！

一緒に活動しませんか？

青壮年部

- JA香川県の組合員（家族含む）なら加入できます。
- 兼業農家也大歓迎。
- 年齢制限はありません。

【お問い合わせ先】 JA香川県営農部営農振興課
TEL087-818-4140



子どもたちへ農業体験

地域の農業への理解を深めてもらい、将来の後継者ともなってもらいたいと、地元の子供たちに農業体験を行っています。写真は綾坂支部が小学校児童とともに行った稲刈り体験の様子。



視察・交流活動

他県JAの青壮年部などとも交流し、活動や地域農業の取り組みを視察することもあります。視野を広げるとともに、盟友の親睦を深める機会になっています。



JA香川県との意見交換会

各支部の代表が当JA役員と意見交換会を行い、盟友をはじめとする香川県農業者の要望をJA運営に伝えます。

女性部

- 農家でなくても、組合員でなくても入れます。
- 年齢制限はありません。
(～40歳代の方はフレッシュミズ部会への入会も可能です)。
- 部費は、年間500円。(活動によっては別途費用がかかるものもあります)。

※お申し込みは、最寄りのJA香川県各支店・出張所、女性部役員までお気軽にどうぞ！

【お問い合わせ先】 JA香川県総務部組合員課
TEL087-825-1232



「ゴミ ゴーサンゼロ」清掃活動

毎年恒例となっている、JA香川県女性部による地域をきれいにする一大イベント。JAの役職員も参加して、各地域でにぎやかに和やかに開催されます。



さまざまな地域貢献活動

写真は、豊南地域女性部五郷支部が開催した防災講習会の様子。地域住民と一緒に日本赤十字社香川県支部の専門家から防災について学び、備蓄食材を使った料理教室で交流を深めました。



女性部活動体験発表会

県内6地区の代表者が年1回、日頃の活動内容を発表します。写真は今年の最優秀賞に選ばれた大川北部地域女性部鴨部支部の菊池春美さん。この後、中四国地区の大会でも発表を行いました。

JA香川県
女性部JA香川県女性部は令和2年、各地域で取り組んでいる
地産地消料理を集めて一冊のレシピ集をつくりました。
その中から1品ずつご紹介していきます。調理時間
30分子どもも喜ぶ、
やみつき味の付け
いのしし三色丼

材料[4人分]

いのしし肉(スライス)	300g
だし汁	300ml
A〔砂糖・醤油・みりん〕	各大さじ2
ほうれんそう	200g
B〔醤油・みりん〕	各大さじ1
卵	4個
砂糖	大さじ1
C〔みりん〕	小さじ1
塩	少々
ご飯	適量
バター	10g
紅しょうが	少々

作り方

- ①いのしし肉は、食感を残すために、1cmの幅に切る。
- ②鍋にだし汁と①を入れ、沸騰させ、アクを取る。Aを入れ、煮汁が半分になるまで煮る。
- ③ほうれんそうはゆでてさっと水にさらし、水けを切って1cmの長さに切り、Bであえる。
- ④卵を割りよく混ぜ、Cを入れて混ぜる。
- ⑤フライパンを熱してバターを入れて溶かす。④を入れ、そぼろにする。
- ⑥ご飯をどんぶりに盛り、②の煮汁を大さじ2杯かける。②のいのしし肉、③、⑤をのせ、紅しょうがをのせる。

ポイント

いのしし肉は煮れば煮るほど
やわらかくなるので、しっかり煮ます。

JA香川県WEBガイド

YouTube「JA香川県チャンネル」では
JA香川県Vlog動画第2弾を公開中!
愛媛県からやって来た2人が香川県で
女子旅をします。本編では、「讃さん広
場 飯山店」で旬の果物を購入し、満喫し
ました。ぜひご覧ください。

JA香川県チャンネル



編集後記

今月号の「あぐりSPECIAL」の取材は7月下旬に
行いました。当日はよく晴れた“取材日和”でし
た。その分とても暑く常備している2本の
500mlのお茶が取材おわりには全部なくなっ
ていました。9月も暑さが続きますが、皆さんも
引き続き熱中症や夏バテに気をつけてくださ
い。(M)